

# 市立札幌病院 ステージアッププランの概要

## 現 状(本書7～9、12、14頁)

### 沿革、指定状況

- ・平成7年桑園地区に移転新築
- ・札幌市医師会地域医療室、地域連携センターの設置
- ・救命救急センター
- ・総合周産期母子医療センター
- ・感染症指定医療機関
- ・エイズ治療拠点病院
- ・地域がん診療連携拠点病院
- ・臨床研修病院(医師)
- ・ESCO事業(市有施設で最初)
- ・電子カルテ導入

### 財務

- ・移転新築後、22年度に初めて黒字。23年度も黒字を維持(2年連続の黒字)
- ・約59億6千万円の資金残(23年度末)
  - 一般会計繰入金
- ・政策医療の提供に伴う収支不足額の補填、病院建設・改良等に伴う企業債元利償還金の一部などを中心に繰り入れ

### 施設

- ・移転新築後17年が経過し、施設・設備が老朽化
- 災害対策
  - ・災害拠点病院
  - ・北海道DMAT指定病院
  - ・停電時における病院機能の確保の必要性

## プランの目標(果たすべき役割)

本書15、16頁

- 1 医療機関との機能分化・連携の推進
- 2 政策医療の提供
- 3 がん治療の質の確保・向上
- 4 高度で専門的な医療の提供
- 5 医療従事者の育成

【計画期間】

24～26年度

## プラン策定の背景(本書10～13頁)

### 社会構造の変化

- ・市内人口がH27をピークに減少。老年人口の増加
- ・高齢者特有の疾病特性や終末期等に対応した医療ニーズが増大

### 市民、医師の意識

- ・「高齢者等入院施設」「救急医療体制」「病診連携」が、今後重視すべき医療政策の上位3項目

### 当院に期待する医療

- ・連携医療機関への調査によると、救命救急医療、小児救急医療、重度合併症患者の診療が上位

### 医療圏の状況

- ・人口10万人あたりの病院数、病床数は、政令指定都市中で最多
- ・市内のDPC対象病院の増加

### 北海道医療計画等での位置づけ

- ・現計画では、4疾病5事業に取り組む医療機関
- ・新医療計画で、新たに定めるべき事項は、精神疾患(4疾病から5疾病へ)と医療連携体制の構築
- ・道央三次医療圏の中核医療機関

### 医療制度改革

- ・2025年に向けての医療・介護機能再編の方向性を、国が提示
- ・一般病床については、「高度急性期」、「一般急性期」、「亜急性期」などに、機能分化・集約化して連携を強化
- ・医療・介護サービスのあるべき姿にむけた医療法などの法改正や診療報酬改定

## 具体的な取組（本書18～23、26頁）

### 1 質の高い医療の提供

- (1) 地域医療機関等との機能分化・連携推進
  - ・紹介率 44.4%(H23) 60%(H26)
  - ・逆紹介率 46.6%(H23) 65%(H26)
- (2) 精神科医療の充実
  - ・措置入院等の年間受入数 30件
- (3) 周産期医療体制の充実
  - ・マザーリング病床の設置 25年度
- (4) 外来化学療法室の拡充(7床 15床)
  - ・実施件数 2,162件(H23) 3,200件(H26)
- (5) 専門性の高いチーム医療の推進
  - ・栄養サポートチームの介入件数  
387件(H23) 470件(H26)
  - ・緩和ケア内科外来新規患者数  
17人(H23) 35人(H26)
  - ・周術期口腔機能管理計画策定件数  
170件(H24) 230件(H26)
- (6) 医師、看護師の勤務環境改善
  - ・医療秘書、看護補助員の増員 24～26年度

### 3 計画的な施設、設備、高度医療機器の整備

- (1) 病院施設、設備の改修・更新
  - ・建物全般の修繕 毎年度実施
  - ・大規模改修手法の検討 26年度まで
  - ・医療制度改革等を踏まえた新たな病院機能の充実や病床再編などの調査・検討  
26年度まで
- (2) 災害に強い電気設備等の設置
  - ・受変電設備等の設置 26年度
  - ・非常用井戸の増設 26年度
- (3) 総合医療情報システムの更新
  - ・電子カルテシステムを中心とした総合医療情報システムの更新 26年度
- (4) 高度医療機器の更新・整備
  - ・耐用年数や医療技術水準の動向を踏まえた計画的な高度医療機器の更新 毎年度

### 2 経営基盤の強化

- (1) ジェネリック医薬品への移行
- (2) 医療情報部門の強化
- (3) 専門性の高い病院事務職員の確保・育成
- (4) 地域医療機関等との機能分化・連携推進【再掲】
- (5) 精神科医療の充実【再掲】
- (6) 専門性の高いチーム医療の推進【再掲】
- (7) 医師、看護師の勤務環境改善【再掲】

#### 累計効果額

主な項目	効果額
ジェネリック医薬品への移行(50品目)	30百万円
地域医療支援病院入院診療加算の算定	177百万円
精神科救急・合併症入院料の算定	235百万円
チーム医療の推進	45百万円
急性期看護補助体制加算の算定	340百万円
医師事務作業補助体制加算の算定	19百万円

- ・新入院患者数(救急、精神を除く一般)  
14,491人(H23) 14,700人(H26)
- ・病床利用率(救急、精神を除く一般)  
81.1%(H23) 82.5%(H26)

### 4 患者サービスの向上

- (1) 患者さんの意見・要望を踏まえたサービスの向上
    - ・患者満足度調査や待ち時間調査など、患者さんの意見・要望の把握・分析に基づく患者サービスの改善 毎年度実施
  - (2) 患者アメニティの向上
    - ・喫茶コーナーの設置 24年度
  - (3) 院内情報の提供
    - ・院内にディスプレイを設置し、映像を通して医療や当院に関する効果的な情報提供  
25年度
  - (4) わかりやすい案内表示・掲示
    - ・案内表示(サイン)や掲示物について、設置場所や説明内容などを改善  
24～26年度随時
- ・入院患者満足度 88.5%(H23) 90%(H26)
  - ・外来患者満足度 83.6%(H23) 85%(H26)

## 経営指標に係る数値目標（本書24頁）

項目	実績	目標			
	23年度	24年度	25年度	26年度	
<b>経営効率化</b>					
新入院患者数 1)	14,491人	14,500人	14,600人	14,700人	
病床利用率 1)	81.1%	81.3%	81.9%	82.5%	
<b>経常収支の黒字維持</b>					
経常収支比率	a)101.4%	100.8%	100.5%	101.8%	
職員給与対医業収益比率	a) 48.6%	49.9%	49.8%	49.7%	
材料費対医業収益比率	a) 30.1%	29.9%	29.7%	29.6%	
<b>単年度資金収支の黒字確保</b>					
単年度資金収支	945百万円	225百万円	139百万円	350百万円	
<b>一般会計繰入金の縮減</b>					
繰入金対経常収益比率	13.4%	8.8%	7.9%	7.6%	

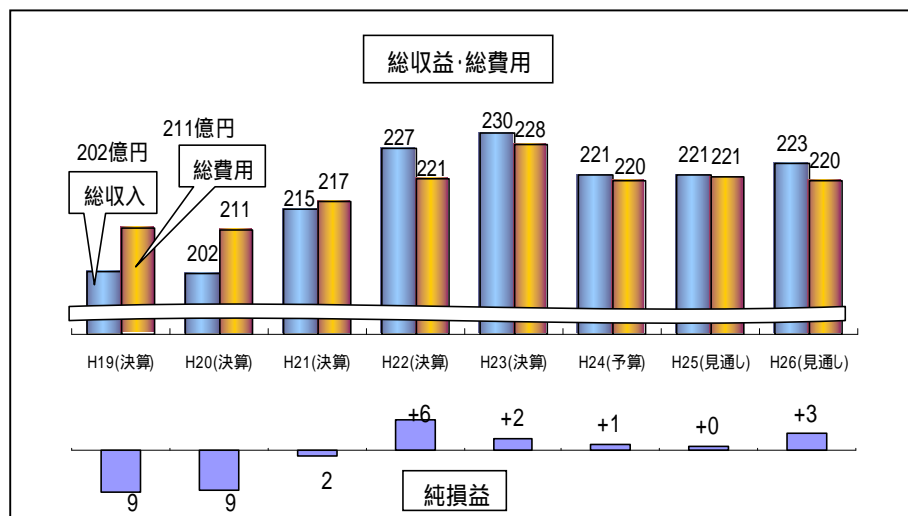
注: 1) 救命救急センター及び精神医療センターを除く。 a) 静療院を除く。

項目	実績	目標			
	23年度	24年度	25年度	26年度	
<b>地域医療機関との機能分化・連携推進</b>					
紹介率	44.4%	50%	55%	60%	
逆紹介率	46.6%	60%	62.5%	65%	
<b>政策医療の提供</b>					
救急患者受入数(3次)	1,052件	1,150件	1,200件	1,250件	
措置入院等の受入数	-	30件	30件	30件	
<b>がん治療の質の確保・向上</b>					
外来化学療法件数	2,162件	2,200件	3,200件	3,200件	
<b>高度で専門的な医療の提供</b>					
栄養サポートチームの介入件数	387件	407件	421件	470件	
緩和ケア内科外来新規患者数	17人	25人	30人	35人	
周術期口腔機能管理計画策定件数	-	170件	200件	230件	
<b>医療従事者の育成</b>					
臨床研修医受入数 1)	44人	50人	50人	50人	
看護補助員数 2)	41.25人	54人	62人	70人	
<b>患者サービスの向上</b>					
入院患者満足度 3)	88.5%	89.0%	89.5%	90.0%	
外来患者満足度 3)	83.6%	84.0%	84.5%	85.0%	

注: 1) 後期研修医を含む。 2) 委託を含み、常勤換算した数値である。

3) 患者満足度調査の総合評価における「満足」、「ほぼ満足」の割合

## 財政収支見通し（本書25、26頁）



入院患者の増加に取り組むとともに、医療の質の向上を図るための人員を確保しながら、急性期看護補助体制加算などの新たな施設基準を満たすことなどにより、各年度とも黒字を維持する見込み

### 一般会計における経費負担の考え方（本書17頁）

当院の果たすべき役割を将来にわたって確実に担うためには、政策医療の提供に伴う収支不足の補填、病院建設・改良等に伴う企業債元利償還金の一部など、引き続き一般会計において経費の負担が必要である。

一方、本プランで掲げる取組を着実に実施し、診療報酬体系に対応した医療を提供しつつ、病院機能の明確化を図ることで、収益の確保を目指す。さらに、今後、内部留保資金の活用等により、一般会計からの繰入金の縮減を図っていくこととする。

### 主な経費

- ・病院の建設改良に要する経費
- ・精神医療に要する経費
- ・周産期医療に要する経費
- ・救急医療の確保に要する経費
- ・保健衛生行政事務に要する経費
- ・医師確保対策に要する経費
- ・長期借入金元利償還経費

## 前プラン（21～23年度）の取組結果（本書1～6頁）

周産期医療や精神科医療の充実など診療体制を強化し、また、財政面においても、収入増加・経費節減の取組などにより、22年度には、新築移転後、初めて黒字となった。  
一方、地域医療機関との機能分化・連携などの面では課題も残っているが、新パワーアッププランに掲げた取組について、全体的には概ね所期の目標を達成できた。

### 1 主な取組項目

#### 診療体制の強化及び病棟機能の再編

- ・NICUを増床（9床 15床）
- ・子宮脱センター、循環器センター、脳神経センターを設置
- ・病床数を削減（818床 772床）
- ・静療院成人部門を本院へ統合
- ・静療院児童部門を一般行政病院化

#### 収入増加、経費節減

- ・総合入院体制加算の算定
  - ・自主料金（文書料、助産料等）の見直し
  - ・ジェネリック医薬品への移行（66品目）
  - ・医療材料費の縮減
  - ・建物総合管理業務の導入
- 主な取組の財政効果額 約11億円

#### 勤務環境の整備等

- ・医師の確保・増強（127名 141名）
- ・医療秘書の増員（11名 23名）
- ・病院独自採用職員の採用方針決定

#### 患者サービス

- ・患者さん用図書コーナー「ジェントル文庫」の設置
- ・広報誌「かざぐるま」の年4回発行

#### 災害対策

- ・1階中央ロビーの椅子を、災害時にベット利用できる椅子に変更
- ・東日本大震災に際し、医療救護班を福島県や宮城県に派遣

### 2 数値目標の達成状況

#### (1) 財務内容の改善に係る数値目標の達成状況

項目	20年度		23年度		達成状況
	実績	目標	実績	目標	
<b>業務の効率化</b>					
病床利用率(本院・一般病床) 1)	80.1%	90.0%	81.1%		
平均在院日数(本院・一般病床) 1)	15.0日	15日以内	13.7日		
<b>経常収支の改善</b>					
経常収支比率(本院)	95.7%	96.9%	101.4%		
職員給与対医業収益比率(本院)	53.4%	53.6%	48.6%		
材料費対医業収益比率(本院)	29.4%	26.8%	30.1%		
<b>単年度資金収支の黒字確保</b>					
単年度資金収支	94百万円	182百万円	945百万円		
<b>一般会計繰入金の縮減</b>					
繰入金対経常収益比率	14.7%	15.0%以下	13.4%		
<b>企業債残高の縮減</b>					
企業債残高	288億円	252億円	252億円		

注: 1) 救急を含まない。

#### (2) 医療機能の確保に係る数値目標の達成状況

項目	20年度		23年度		達成状況
	実績	目標	実績	目標	
<b>地域医療機関との機能分化・連携推進</b>					
紹介率	29.6%	50%	44.4%		
逆紹介率	27.6%	60%	46.6%		×
<b>不採算医療・政策医療の提供</b>					
救急患者受入数(3次)	983件	1,300件	1,052件		×
周産期母体搬入数	117件	140件	103件		
<b>がん治療の質の確保・向上</b>					
がん患者受入数	1,519件	1,700件	1,636件		
がんに関する手術件数	910件	900件	1,169件		
<b>高度で先進的な医療の提供</b>					
腎移植手術件数	36件	50件	45件		
<b>優れた医療従事者の育成</b>					
臨床研修医受入数(後期研修医を含む)	48人	50人	44人		
<b>医療の質・標準化に係る数値項目</b>					
クリニカルパス使用率	66.9%	70%	83.2%		

達成状況は、計画期間(21～23年度)中の達成状況を評価したものであり、「○」は「目標を達成したもの」、「△」は「概ね目標を達成しているもの(目標値の概ね9割程度達成)」、「×」は「目標を達成できなかったもの」とした。